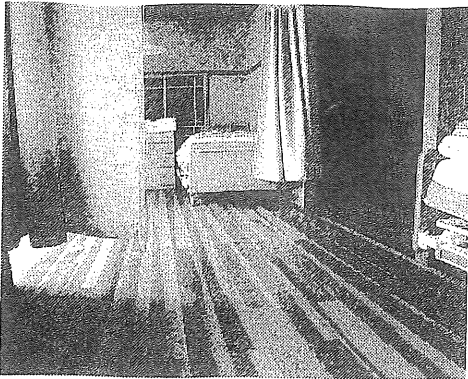


83歳のおばあちゃんが私財なげうち特養ホーム



マツの床やスギの壁など、木をふんだんに使った居室

住宅地に畑が残る武蔵野市八幡町。壁が小豆色の一風変わった三階建ての細長い建物が、今月開所した「親の家」だ。玄関の引き戸を開けると、真新しい木の香りが広がった。フロアから階段、居室、トイレにベランダまで、床や壁のほとんどが木製だ。

四十人のお年寄りが、四つのグループに分かれて暮らす。このほか短期入所を八人まで受け入れる。それぞれの個室は壁や障子、ふすま、のれんで、さりげなく仕切られている。

「家政婦紹介所でお世話した女性に、身寄りがなく、病院で死んでいく方々がいます。ゆっくりできる家がほしいなあ、



「きょうだいが帰ってくるんだ、という気持ちでお世話したい」と入所者を待つ本郷さん—武蔵野市八幡町の「親の家」

「親の家」と名付けた木の香りの建物でお年寄り40人の新しい暮らしが始まった

武蔵野市内で四十五年間、家政婦紹介所を営んできた八十三歳のおばあちゃんが、同世代の人たちに「互いのぬくもりを感じて暮らしてもらいたい」と、私財を使って特別養護老人ホームをつくった。「親になり代わってお世話できれば」という思いをこめ、ホームの名前は「親の家」。木の香りがいっぱいの真新しい家で、お年寄りの暮らしが始まった。

(徳光一輝)

と思ったのです」
ホームの生みの親、本郷伸枝さん(八三)はこう話す。そこで口がきゅっと締まった緑色の仕事着は、「働きつめでこれしか着たことがない」という。栃木県出身。戦争で夫

と死別し、一人息子を育てる傍ら、昭和三十一年ごろから三鷹駅近くで「一(はじめ)家政婦紹介所」を営んできた。現在、二百人ほどが登録しているという。

紹介所をやっている

武蔵野市の本郷伸枝さん

探し始めた。武蔵野市の土屋正忠市長にも相談した。

土地代や建設費、設備や備品代など総事業費は約十三億七千万円。寄付や借入金のほか、約十億七千万円は国・都・市から補助を受けた。自社ビル一階の自室を準備室に使うため、自分は板の間で寝たという。

お年寄りを「入所者」と呼ばないという本郷さん。「ここは皆さんのわが家ですから、本心に心の温まるようにしたいの」。だから、自分と同世代のお年寄りに、こう声をかける。「お帰りのなご」

武蔵野



多摩支局
立川市曙町2-10-1
ふどうやビル5F
〒190-0012
☎042-524-3166
FAX528-7517
販売527-9853
広告525-4138

あすのごよみ

(14日)	
旧3月21日	
【大安】	
月齢	20.1
日出	5:10
日入	18:13
月出	—
月入	9:26
満潮	7:28
干潮	2:05
干潮	14:45
中潮	(東京)